

子どもの発達と保育をとらえる視点			
発達過程	ねらい	内容	
①おおむね6か月未満	<p>○お腹がすき、乳(母乳・ミルク)を飲みたい時、飲みただけゆったりと飲む</p> <p>○安定した人間関係の中で、乳を吸い、心地よい生活を送る</p>	<p>○よく遊び、よく眠る</p> <p>○お腹がすいたら、泣く</p> <p>○保育教諭にゆったり抱かれて、乳(母乳・ミルク)を飲む</p> <p>○授乳してくれる人に関心を持つ</p>	<p>○一人一人の子どもの安定した生活のリズムを大切にしながら、心と体の発達を促すよう配慮する</p> <p>○食欲と人間関係が密接な関係であることを踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で応答的な授乳中の関わりが子どもの人間への信頼、愛情の基盤となるよう配慮する</p> <p>○お腹がすき、泣くことが生きていくことの欲求の表出につながることを踏まえ、食欲を育むよう配慮すること</p> <p>○一人一人の子どもの発育・発達状態を適切に把握し、家庭との連携を取りながら、個人差に配慮すること</p>
②おおむね6か月～1歳3か月未満	<p>○お腹がすき、乳を吸い、離乳食を喜んで食べ、心地よい生活を味わう</p> <p>○いろいろな食べ物を見る、触る、味わう経験を通して自分で進んで食べようとする</p>	<p>○よく遊び、よく眠り、満足するまで乳を吸う</p> <p>○お腹がすいたら、泣く、または、喃語によって、乳や食べ物への催促する</p> <p>○いろいろな食べ物に関心を持ち、自分で進んで食べ物を持つて食べようとする</p> <p>○ゆったりとした雰囲気の中で、食べさせてくれる人に関心を持つ</p>	<p>○お腹がすき、乳や食べものを催促することが生きていくことの欲求の表出につながることを踏まえ、いろいろな食べ物に接する機会を持ち、食欲を育むよう引こする</p> <p>○子どもの咀嚼や嚥下機能の発達に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さなどの調理形態に配慮する</p> <p>○一人ひとりの子ども発達状態を適切に把握し、家庭と連携をとりながら、個人差に配慮する</p> <p>○食欲と人間関係が密接にあることを踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で応答的な授乳及び食事での関わりが子どもの人間への信頼、愛情の基盤となるよう配慮する</p>
③おおむね1歳3か月～2歳未満	<p>○お腹がすき、食事を喜んで食べ、心地よい生活を味わう</p> <p>○いろいろな食べものを見る、触る、噛んで味わう経験を通して自分で進んで食べようとする</p>	<p>○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ</p> <p>○いろいろな食べものに関心を持ち、手づかみ、または、スプーン、フォークなどを使って自分から意欲的にたべようとする</p> <p>○食事の前後や汚れたときは、顔や手を拭き、きれいな状態に快さを感じる</p> <p>○楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人に関心を持つ</p>	<p>○子どもが食べものに興味を持って自ら意欲的に食べようとする姿を受け止め、自立心の芽生えを尊重する</p> <p>○食事のときには、一緒に噛むまねをして見せたりして、噛むことの大切さが身につくよう配慮する。また、少しずつ色々なものに接することができるよう配慮すること</p> <p>○子どもと一緒に食べたい人を見つけ、選ばうとする姿を受け止め、人の関心の広がり配慮すること。また、子ども同士の間で、さまざまな方々を知らせていく。</p> <p>○清潔な習慣については、子どもの食べる意欲を損なわぬよう、一人一人の状態に応じて関わる</p>
④おおむね2歳	<p>○いろいろな種類の食べ物や料理を味わう</p> <p>○食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ</p> <p>○保育教諭を仲立ちとして、友達とともに食事を進め、一緒に食べる楽しさを味わう</p>	<p>○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ</p> <p>○食べものに関心を持ち、自分で進んでスプーン、フォーク、箸などを使って食べようとする</p> <p>○保育教諭の手助けによって、うがい、手洗いなど、身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動を自分でする</p> <p>○楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人、調理をする人に関心を持つ</p> <p>○色々な食べものを進んで食べる</p> <p>○身近な動植物を始め、自然現象をよく見たり、触れたりする</p> <p>○保育教諭を仲立ちとして、友だちと共に食事を進めることの喜びを味わう</p>	<p>○食べものに興味を持ち自主的に食べようとする姿を尊重する。また、いろいろな食べ物に接することができるようにする</p> <p>○自然や身近な事物などへの触れ合いにおいては、安全や衛生面に留意する。また、保育教諭がますぐ親しみや愛情を持って関わるようにして、子どもが自らしてみようと思ふ気持ちを持つて関わるようにする</p> <p>○子どもと一緒に食べたい人を見つけ、選ばうとする姿を受け止め、人の関心の広がり配慮すること。また、子ども同士の間で、さまざまな方々を知らせていく。</p> <p>○清潔な習慣については、子どもの食べる意欲を損なわぬよう、一人一人の状態に応じて関わる</p>
⑤おおむね3歳	<p>○できるだけ多くの種類の食べ物や料理を味わう</p> <p>○自分で食事ができること、身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう</p> <p>○食事に必要な基本的な習慣や態度を身につける</p> <p>○調理に関心を持ち、簡単な調理を楽しむ</p> <p>○身近な食材を使って、食べものの味の違いを知る</p> <p>○大人と一緒に食事をし、会話を通して色々なことを学ぶ</p> <p>○食べ物は口から食べて消化され、便となって体外へ排泄されることに気づく</p>	<p>○好きな食べ物をおいしく食べる</p> <p>○様々な食べ物を進んで食べる</p> <p>○健康な生活リズムを身につける</p> <p>○身近な大人や友達とともに、食事をすすむ喜びを味わう</p> <p>○同じ料理を食べたり、分け合って食事することを喜ぶ</p> <p>○身近な動植物に関心を持つ</p> <p>○食習慣の基本を身につける</p> <p>○良く噛んでしっかりと飲み込むようにする</p> <p>○食べ物と便との関係に興味に関心をもつ</p>	<p>○遊びや睡眠、排泄などの諸活動をリズムよく展開し、食欲が育まれるよう配慮する。</p> <p>○身近な動植物、また飼育・栽培物の中から保健・安全面に留意しつつ、食材につながるものを選び、積極的に「食する」他見を通して、自然と食事のつながりに気づくように配慮する</p> <p>○食前、食後のあいさつをし、食前には手洗いをし、食具が上手に使え、よく噛んで食べるなどの基礎的な食習慣を身につけるように働きかける</p>
⑥おおむね4歳	<p>○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける</p> <p>○様々な人々との会食を通して愛情や信頼感を持つ</p> <p>○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみをもち、全てのいのちを大切にすることを学ぶ</p> <p>○調理に積極的に関わりをもつ</p> <p>○様々な伝統的な日本特有の食事を体験する</p> <p>○様々な人々との会食を通して、愛情や信頼感を持つ</p>	<p>○慣れない食べ物や嫌いな食べ物にも挑戦する</p> <p>○うがい、手洗いなど身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動を自分でする</p> <p>○食生活に必要なことを、友達とともに協力して進めて関わりを深め、思いやりの気持ちをもつ</p> <p>○自分たちで野菜を育て、食材にも旬があることを知り季節感を感じる</p> <p>○食事の際には、安全に気をつけて行動する</p> <p>○食べものを通して日本の伝統と食文化に関心を持つ</p>	<p>○食習慣の形成に当たっては、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わりながら、主体的な活動を展開する中で身につくよう配慮する</p> <p>○身近な動植物に関わって共感し合い、いのちを育む自然に感謝の気持ちももてるよう、自ら関わろうとする意欲を大切にすること</p> <p>○調理する中で、様々な料理を通して素材に目をむけ、関心が養われるようにすること</p> <p>○年間行事や季節と関連させて、日本の伝統と食文化を伝えるように配慮する</p> <p>○大人との信頼関係に支えられて、自分自身の生活を確立していくことが基盤となることを考慮する</p>
⑦おおむね5歳	<p>○いろいろな料理に出会い、発見を楽しんだり、考えたりし、様々な文化に気づく</p> <p>○健康と食べものの関係に気づく</p> <p>○食習慣、マナーを身につける</p> <p>○自然の恵みと働くことの大切さを知り、感謝の気持ちを持つ</p> <p>○食事の準備から後片付けまでの食事作りに自らかわわり、味や盛り付けなどをかんがえたり、それを生活に取り入れれようとする</p> <p>○加工食品の原材料に興味に関心を持つ</p> <p>○食べものはそれぞれその食品によって、味や香りに特徴があることを知る</p>	<p>○健康と食べ物の関係について関心を持つ</p> <p>○肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができることを知り、自然の恵みに感謝の気持ちを持つ</p> <p>○調理をしている人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ</p> <p>○挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける</p> <p>○伝統的な食品加工に出会い、味わう</p> <p>○野菜の収穫時期に気づき、自分たちで育てた野菜を食べる</p> <p>○食材の色、形、香りなどに興味をもつ</p> <p>○調理器具の使い方を学び、安全で衛生的な使用方法を身につける</p>	<p>○健康と食べ物の関係について関心をもつ</p> <p>○味、関心を踏まえ、全職員が連携のもと、子どもの発達に応じた内容に配慮する</p> <p>○様々な文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮する</p> <p>○安全・衛生面に配慮しながら、扱いやすい食材、調理器具などを日常的に用意する</p> <p>○食品や料理を通して五感が発達するよう創意工夫をする</p>
⑧おおむね6歳	<p>○自分の体に必要な食品の種類や働きに気づき、栄養バランスを考慮した食事をとろうとする</p> <p>○地域で培われた食文化を体験し、郷土への関心を持つ</p> <p>○身近な自然に関わり、世話をすることで、料理との関係を考え、食材に対する感覚を豊かにする</p> <p>○食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気の中で食事をすすむ</p> <p>○色々な加工食品を見たり触れたりし、調理の方法や料理を知る</p> <p>○生産地から自分が食べるまでの過程を知り働く人に感謝する</p>	<p>○自分の健康に関心を持ち、必要な食品を進んでとろうとする</p> <p>○食品は種類によって体の働きに違いがあることを知り、健康に気をつけて食品を選ぶ</p> <p>○色々な料理に出会い、発見を楽しんだり、考えたりし、様々な文化に気づく</p> <p>○栽培を通して、食材の成長を喜び、調理することで生かされることを学ぶ</p> <p>○調理をしている人や地域のお世話になっている人などに感謝の気持ちを持つ</p> <p>○外国の人々など、自分と異なる食文化に興味や関心を持つ</p> <p>○身近な大人や友達と協力し合って、調理することを楽しむ</p> <p>○おいしそうな盛り付けを考える</p>	<p>○食べものは過剰に食べたり、欠乏することにより、心身の健康を害することになり、気づくよう配慮する</p> <p>○子どもの食生活と関係の深い人々と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に食を楽しむ</p> <p>○高齢者をはじめ、地域、外国の人々などと親しみをもち、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること</p> <p>○買い物を通して食生活の関心を高めるよう家庭への協力を図る</p>
備考	<p>入園時、3才未満クラス児には離乳食チェック表を渡し、食の進みの相互理解と連携を行っていく。</p> <p>アレルギー対応あり。</p>		